
PrimoでAlmaレコードを非公開にする

Note

Primo VEを使用している場合、「[Primo VEでAlmaレコードを非公開にする](#)」を参照してください。

[メニューに戻る](#)

Almaレコードは、次の方法でディスカバリーから非公開にできます。

- 物理的なロケーションにあるすべての所蔵レコードを抑制する – 場所の[ディスカバリーから抑制]チェックボックスをオンにします。詳細については、[物理的なロケーションの編集](#)を参照してください。
-

Note

ある場所のレコードが非公開にされるか、非公開が解除された後で所蔵の利用可否情報を更新するには、[書誌レコード一式をPrimoで再公開]ジョブを実行する必要があります。詳細については、「[書誌レコードセットの再公開](#)」を参照してください。

- 個々のレコードを非公開にする – MDエディタで、所蔵レコードや書誌レコードを[ディスカバリーからサプレス]を選択します。詳細については、「[MDエディタページのナビゲート](#)」を参照してください。非公開化はレコードを保存しなくても有効になります。
メタデータエディタで行われる非公開化は、メンバーのレコードのコピーのみを非公開化します。メンバーのコピーが非公開化されている場合、そのインベントリ+ローカルフィールドは公開されたネットワークレコードに追加されません。
 - 次の条件下でレコードの検出を抑制します（[その他の設定](#)を参照）。
 - 顧客パラメータマッピングテーブル（[設定メニュー](#) > [リソース](#) > [一般](#) > [その他の設定](#)）で **suppressBibWithDeletedHol** が **true** に設定されている場合、オペレーターが最後のアイテムを削除した後に最後の所蔵レコードを削除することを選択した場合、書誌レコードは抑制されます。所蔵していない書誌レコードは、このパラメータによって公開が抑制されることはありません。
 - 顧客パラメータマッピングテーブル（[設定メニュー](#) > [リソース](#) > [全般](#) > [その他の設定](#)）で **suppressBibWithSuppressedHol** が **true** に設定されている場合、オペレーターが所蔵レコードをすべて非表示にすると、書誌レコードも非表示になります。
 - 特定のプロセスタイプのリソースを除外します。「[特定のプロセスタイプのリソースを公開から除外](#)」を参照してください。
 - ネットワークゾーンレコードの非公開化 - ネットワークゾーンにログインして、レコードを非公開化します。
-

Note

NZ（ネットワークゾーン）でレコードを抑制しても、IZ（機関ゾーン）でそのレコードにリンクされているレコード

は自動的に抑制されません。ローカルレコードの**検出**を抑制したい場合は、IZでそれらを抑制する必要があります。
